

神社の社に、社殿がありその建屋の中に本殿が安置されています。本殿は社殿に守護されています。社殿は覆殿ふくでんとしての役割を果たしています。

① 本殿すがたの姿

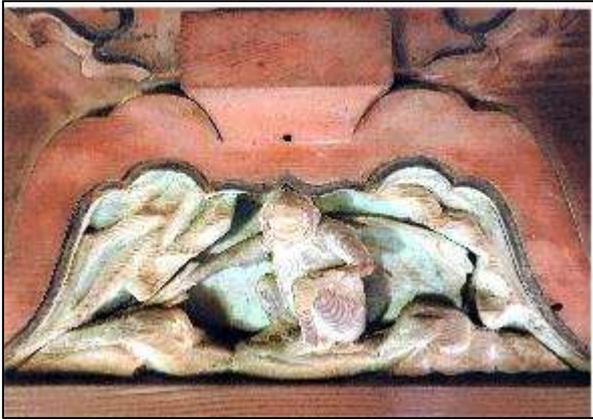


本殿は、一回り多き建屋に覆われて安置され、保守されています。覆殿と呼ばれる建屋の内部で、拝殿からの写真です。日枝神社の覆殿の内部は、参拝する拝殿、一段高く幣殿（ハイデン・献上物を奉げる所）本殿と続きます。

本殿は一間社流造いちけんしゃながれづくりと呼ばれ、母屋正面の柱の間隔が幅一間の社で、規模の小さな本殿の形式を受け継いでいます。

流造とは、切り妻の屋根で、前面を長く伸ばし、流れるようで優美な曲線を作っています。

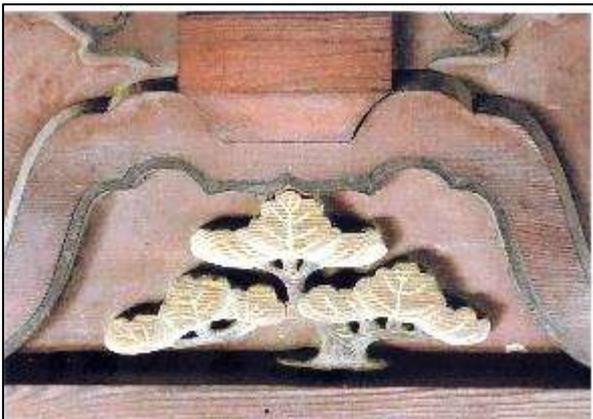
屋根は柿葺き（こけらぶき）で薄い板を重ねた形式です。



○ 本殿の四方には、梁を支える“かえるまた蟻股”  
という構造物の股間に、彩色された  
彫り物を見ることができます。

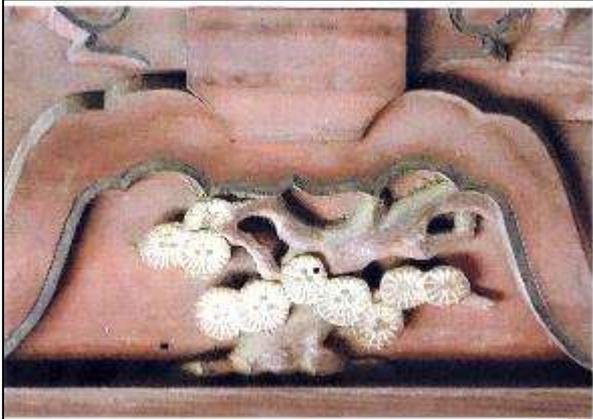
◎ 正面（南向き）

右腕を伸ばしたサルの彫り物です。  
山王社のほんまぐ眷属（神の使い）は、サル（申）、  
本殿の正面に飾られる由縁です。



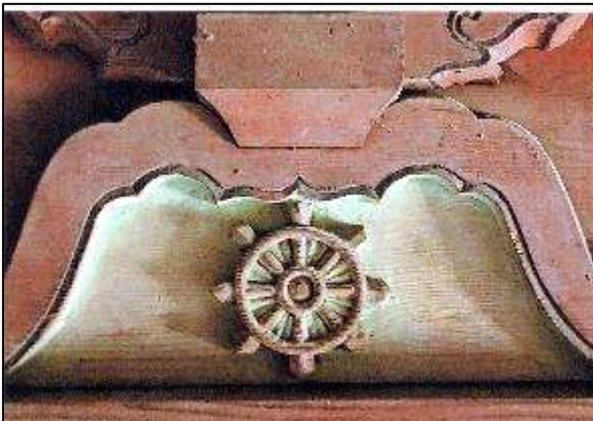
◎ 左側面（西向き）

めでたい松葉の彫り物です。



◎ 右側面（東向き）

梅花の彫り物



◎ 背面（北向き）

りんぼう輪宝と呼ばれる密教の法具です。  
最澄が日本にもたらした仏教の法具に  
属します。

山王神社は「山王権現」という神を  
祀りますが、仏教関連の彫刻が彫られ  
ているところに、日本特有の神仏混淆  
の思想・信仰を知ることができます。

## ② 平塚市の文化財としての価値

### ○ 平塚市の文化財調査報告書 第27集 平成3年度 平塚市教育委員会より

『 寺田縄の鎮守で、旧称山王社。平塚市内に遺存する、建立年代の明らかな神殿本殿では最も古い。小振りで簡素だが、均整の取れた美しい社殿である。全体に淡い朱が残っているが、材質は向拝柱(1)が檜である以外、主要材はすべて柾である。水引虹梁(2)は直材ではなく、中央部が隆起して、中備には絵様肘木を置くのが珍しい。なお、現在の覆殿の建築年代は未詳だが、茅葺のまま(3)である 』

(1) 向拝柱(こうはいはしら)： 流れ造りの張り出した屋根の下が礼拝するところです。その屋根を支える柱です。

(2) 水引虹梁(みずひきこうりょう)： 向拝柱の奥に、弓形に湾曲した形の梁。

(3) 覆殿の屋根は茅葺でしたが、1957(昭和32)年に茅を覆う、トタン屋根にふきかえました。

- 寺田縄日枝神社の本殿は、「平塚市内に遺存する、建立年代の明らかな神殿本殿では最も古い」と評価されています。市内最古の神社本殿です。

平塚市内に残る、価値の高い文化財、平塚市の歴史的文化財・宝といえます。私たちは、この誇らしい文化財を庇護し、後世に残す義務があると思います。

- 今回ご紹介しています「寺田縄日枝神社」は、地域の氏神様として、村の鎮守様として長年にわたり地域の守り神として信仰され続けてきました。地域住民が保守し続けてきたので、今の姿を目にすることが出来ます。

今回の「寺田縄日枝神社」記事は、その視点を、寺田縄地域のいや平塚市の重要な文化財、文化遺産としてお読みいただきます。

次回(6)では、神社の棟札をご紹介いたします。